

第3回耳納北麓観光拠点施設指定管理者候補者選定委員会会議録

- 日 時：令和8年8月26日（水） 9時30分～16時00分
- 場 所：久留米市庁舎3階 302会議室
- 出席委員：石井寿佳委員、橋本浩子委員、高村幸代委員、鶴久哲志委員
欠席委員：上原敬子委員
- 開催形態：非公開

1 開会

2 議事

（1）二次審査の審査方法等の確認

【事務局】

審査方法等について説明

【委 員】

各応募団体の経営分析概略を説明

（2）二次審査（プレゼンテーション及び面接審査）

提案内容について説明後、委員による質疑応答を行った。

概要は以下のとおりである。

<公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会>

【委 員】

日曜市の拡充案として、道の駅との連携とある。集客はどのような手法を考えているか。

【団 体】

現在は、野菜中心で日曜市を開催。これに、加工品や植木など、品ぞろえの幅を広げ魅力を高めてマルシェの形に持っていきたい。

周知にも力を入れていきたい。観光案内所、SNS、出展されるみなさまの持っている発信媒体の活用を想定。

【委 員】

サイクリスト、登山者をターゲットに設定している。

このニーズに応えるための、改修やサービスをどのくらい考えているか。

【団 体】

給水機能のサービスはあるが、どのくらい潜在的にニーズがあるか、これから把握をしていきたい。現在は休憩スペースすらない状態。まずは世界のつばき館、山辺道文化館でそうした場所の確保を行う。

【委 員】

この数年経常赤字が続いており正味財産が減っている。公益財団法人のため、利益拡大は難しいと思うが、財団としてこの現状をどう考えているか。

【団 体】

現在も安定した財政基盤は持っていると考えている。しかし、ここ数年赤字が生じていることは課題と認識している。原因は、経費や人件費の高騰について、十分な財源を確保できていないため。

歳出の削減をしっかりと行い、やるべき事業については、事業の中身の見直しを行っていく。また、正味財産の基金運用を考えていく必要もあり、既に検討を始めている。

【委 員】

収支計画書では収支が0円になっているが、この指定管理事業で稼ぐことは難しいということか。

【団 体】

収益事業に位置付けているが、必ずしも収益を上げて公益事業に振り替えるようなイメージは無い。一定の投資をして、皆さんに満足していただけるようなものにしていきたい。

【委 員】

世界のつばき館にはツバキの貴重な品種もあると思うが、管理は今後も同じ団体に委託か。

【団 体】

世界のつばき館はツバキが命。先方との協議になるが枯らさないようにしっかりと管理していく。

【委 員】

人員の配置は現状と同じように見えるが、人数を増やさなくても提案内容の実施は可能か。色々な事業者さんの名前が出ている。そういった方との調整はできるのか。

【団 体】

今の体制で行っていく予定にしている。当協会には観光案内所や、学会等の他団体を誘致する部門があり、事業者との連絡体制がある。オール観光協会でやっていきたいと考えている。

【委 員】

提案に色々なワークショップやイベントの企画があるが、特に力を入れるものは。

【団 体】

現在も山辺道文化館で様々な教室等をしているが、新たに、まち旅博覧会を耳納北麓版でやっていきたいと思っている。今のまち旅とは全く別建てで拡充する。

【委 員】

年度計画を見ると実施時期が少し遅い気がする。全体的に前倒しできないか。

【団 体】

盛りだくさんになっている。地元と相談しながら、できることから前倒して進めていきたい。

【委 員】

現場スタッフの人数は今と変わらず、それをアクティオ本体がサポートするという形態での運営か。

【団 体】

初年度が大事。アクティオの営業担当者が入り、どういった考えで、どういった人たちに会っていくか、を現場に伝える。かなりの割合で現地に行く。そうすると、他施設の管理事例でもそうだが、2年目、3年目は現場スタッフが自分達で作っていく文化ができる。つながりを作っていく文化ができる。そうした関わり方をしていきたい。

【委 員】

地域の人を巻き込んで作りあげていくスタイルだと思うが、上手くいかない場合もある。どのような対応を考えているか。

【団 体】

地域の方を上手く巻き込むことができない場合も確かにあると思う。こうした場合、2つのことが大事。1つは町のキーパーソンを押さえること。その方に足しげく通い、対話を続けること。もう1つは、ちょっと話に行く、ちょっと行ってみる、というくらいの雰囲気のある場所にできるか、ということ。無理に参加をさせることが1番ダメ。世界のつばき館の中央テーブル、ここが肝だと思う。ふらっと行って、町のキーパーソンや、館長、アクティオの営業担当者も含めスタッフと話ができる。その日々を続けていく。1日では変わらない。その積み上げが大事、その積み上げ方にはアクティオにノウハウがあるので、しっかりスタッフに伝えていきたい。

【委 員】

最終的に目指すゴール、イメージしているターゲットはあるか。

【団 体】

山辺道文化館の木春食堂は、町の人たちが集まってご飯を食べる、素晴らしい空間。このようにまず、地域の人を楽しめる3館になることが大事。この3館にはなんかあるよね、面白いね、という状況になることが大事。それが外に繋がっていくのが、今回の施設運営では、ベターかと思う。大きな投資をするというよりも、町のみながこの町が楽しい、というところから広がっていく。そこに入ってきた大学生や民間企業等によって、外に広がっていく形が大事かと思う。このため、まずは、地域の方達をターゲットにやっていきたい。そこから、地域の人たちの楽しい感覚を外に持っていきたい。

【委 員】

収支計画上、3館とも5か年で全て赤字。この指定管理業務では利益が見込めないということか。

【団 体】

指定管理業務として収入と支出は差引0と考えている。公募の際、3館まとめて指定管理料の上限が設定されているケースも多いと思うが、今回は各館で指定管理料の上限が設けられている。このため、各館でその上限を超える指定管理料を計画することができないと考えた。また、収支計画を各館で0円にするために、一般管理

費を世界のつばき館の収支計画にまとめて計上した。この部分で、耳納北麓つむぎパートナーズの利益を見込んでいる。山辺道文化館と草野歴史資料館は、各館で指定管理料が決まっているので、どうしても赤字になってしまう。

世界のつばき館は、収入と支出を引いた時に、一般管理費分が利益になる。

この部分で、山辺道文化館と草野歴史資料館の赤字を相殺している。

【委 員】

世界のつばき館は施設管理にあたって、特殊性がある。ツバキは誰が管理するか。

【団 体】

現時点では、草野地区の方と話をしているが、指定管理業務の正式な受託後に改めてお話をさせてもらう。もし、上手くいかなければ溝田さんの方で管理可能。

<株式会社リタ>

【委 員】

コンセプトやターゲットを設定しているが、その周知方法は。

【団 体】

活動の発信にあたり、HP と SNS を全て刷新したい。初年度は引継ぎになる。そこで仕様を決定して、2年目3年目の公開になると思う。

【委 員】

施設管理について、3館とも種類が違い、気を遣う。色々な修繕も必要。保守や清掃、植栽の管理も様々。どこまで自主で、どの程度が委託か。

【団 体】

委託先は、既存事業者を踏襲すると思う。修繕については、金額等に応じて、指定管理者が対応するか、市が対応するかが分かれる部分もあるので、どこをどこまでというのは申し上げにくい。ただ、今回、文化財の建物もあるが、我々はそれを活用して宿泊施設をやっている実績がある。文化財を扱う経験・ノウハウはある。

【委 員】

つばき館はツバキの管理もあるが、現在の事業者と連携か。

【団 体】

これまでの校区にお願いするのが一番だが、我々の運営する宿にも植栽はある。事業者の知り合いも沢山いる。もしお互いの条件に満たない場合に、相談する先は沢山あるので心配はしていない。

【委 員】

ペアリングディナー滞在プランやナイトタイム等の提案があるが、実現の可能性は。また、実施時期はいつ頃になるか。

【団 体】

実行すること自体は難しくないが、どういう形でやるかが大事。シェフを呼んで、メニューをつくるだけなら、何も変わらない。既に活動している皆さまに、どう関わってもらえるかを考えないといけない。イベントを実施することが目的ではない。高付加価値で来訪の目的となるお食事を作る。しかも、継続可能性のある地元の皆さまが作る、というのが一番大切。我々の八女の宿でも地域の方が作っている。同

様のプロセスを経て、観光庁の補助を使って実施している。八女は沢山の市町村が合併してできており、それぞれの地域の郷土料理を、全て高付加価値化したメニューにして提供している。実行すること自体は難しくないが、どんな食材を誰とともに扱うか、しっかりと設定をしてやっていく。

【委 員】

草野地区でのマルシェの提案があった。既存のつばきフェアとは別の時期か。

【団 体】

需給を整えるためのものと考えている。今来ていないところにイベントを打つべきと考えている。

【委 員】

（資本金の増資に関連して）出資予定企業の 100%の子会社になるならば、現在提案している会社の状況が変わる。提案内容を継続できるか。

【団 体】

出資予定企業は、資金面のサポートをするが実務は、現在の社長に任せる。逆に、出資予定企業側にノウハウは無い。提案内容に変更は無い。

【委 員】

スタッフは少人数。企画の広がりもあるが提案の人数でできるのか。

【団 体】

提案書に掲載の人数は、あくまで施設の運営人員の数。社長である自分は含めていないが、もちろん自分が関わることになる。また、運営だけではなく、企画や文化財のチームも別にある。食事やサイクリングの提案は運営とは別のチームが担う。多くの人が関わる。

(3) 各委員による採点

(4) 事務局より集計結果報告

(5) 指定管理者候補者の選定

【委員長】

審査の結果、基準点を超えていることを確認し、指定管理者候補者優先交渉権者に公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会を、第2交渉権者に耳納北麓つむぎパートナーズを選定する。

【全委員】

異議なし

3 閉会